端の「<」をクリックするだけです。パネル自体が不要なら「x」をクリックすると画面上から姿を消します。もう一度表示させたい場合は、ページを再読み込みさせる必要があります。

One Point いくつかの処理で、Greasemonkey APIが使えるかどうかをチェックして分岐処理を行なっているところがあります。

```
112: function dbg(msg, lvl) {
113:     if (typeof(GM_log) == "function") {
114:         GM_log(msg);
115:     } else {
116:         window.status = msg;
117:     }
118: }
```

```
157: if (typeof(GM_xmlhttpRequest) == 'function') {
.....
```

これらはGreasemonkeyを使わない環境でも動作するように考えられているので、普通のウェブサイトにも設置する事ができるようになっています。ウェブサイトに設置しておくと、そのサイトにアクセスしてきた人に対してRSSパネルが表示されるようになります。RSSパネルの作者のサイトでもデモ用に使われているので、興味があれば確認してみてください。

Greased Lightbox

機能概要 画像ファイルの閲覧を楽にしてくれる

ライセンス Creative Commons BY NC SA

動作確認Ver. 0.14

配布サイトURL http://shiftingpixel.com/lightbox/
http://userscripts.org/scripts/show/3400

作　者 Joe Lencioni

解　説 このスクリプトをインストールすると、画像ファイルへの直リンクや、Google Image Seach（http://images.google.co.jp/）などのサイトで、リンク先の画像が同一画面内で表示できるようになります。さらに、前後の画像へスムーズに移動できる機能や、画像の拡大縮小などの便利な機能もあります。

図4-6はGoogle Image SeachでGreased Lightboxを使っている様子です。画像をクリックすると、画像がその場で拡大表示されます。いちいちタブやウィンドウで切り替える必要がなくなり、気軽に閲覧できるようになります。

図4-6

ちなみにサンプルで検索している画像は我が家の愛猫の写真でして、ここぞとばかりに登場していますが、えー、他意しかありません。本当にごめんなさい。

使い方 画像ファイルへのリンクをクリックした際や、画像検索サービスでの検索、画像共有サービスの利用時など、自動的に起動します。ただし、「画像ファイルへの直リンク」以外の場合はスクリプト内にサイト毎の対応コードが記述されている必要があります。残念ながら初期状態のままでは日本国内の画像検索サービスではほとんど使えません。対応コードの追加方法に関しては「ワンポイント」で解説します。

とまぁ、若干不便なところもあるのですが、たとえばブログなんかだと「画像をクリックすると拡大」と書いてあって大きなサイズの画像に直リンクしている事が多いので、そういった場面では役に立ちます。

それでは手始めに、基本の使い方を抑えておきましょう。

画像をクリックしてGreased Lightboxが起動すると**図4-7**のような画面になります。

図4-7

右上にあるのがナビゲーション用のメニューです。それぞれ次のような意味があります。

ー	画像を小さくする
＋	画像を大きくする
←	前の画像を表示
→	次の画像を表示

画像や周りの半透明になっている部分をクリックするとGreased Lightboxが終了します。たったこれだけなので偉そうに解説せずとも直感で操作できますね。

次はキーボードショートカットです。Greased Lightboxはキーボードだけでも使えるように配慮されています。使えるショートカットは次の通りです。

キー	機能
[0]	オリジナルサイズで表示
[-]	画像を小さくする
[+]	画像を大きくする
[←]	前の画像を表示
[→]	次の画像を表示
[x]	画像を閉じる
[ESC]	画像を閉じる

あまり多くないので、すぐ覚えられますね。

One Point 既に説明しましたが、国内の画像系のサイトではほとんど使えません。幸いにも対応サイトを追加する方法が用意されているので、自分で追加してしまいましょう。ただし、はっきり言ってかなり難しいです。

まずは既存の設定内容を見ていきましょう。72行目から始まるsearchDefs変数への代入が設定になっています。サイト毎にパラメータと処理内容をまとめているのがわかると思います。つまり、独自の設定もここに追加すれば良いわけです。設定はほとんど正規表現なので、正規表現を理解している必要があります。

各項目の意味は次の通りです。

パラメータ	内容
name	設定名です。
includeRegExp	この設定を適用するサイトのURLの正規表現です。window.location.hrefにマッチさせます。
linkRegExp	この設定を適用する個別のリンク要素の正規表現です。href属性にマッチさせます。
excludeLinkRegExp	linkRegExpとは反対に、この設定を適用しないリンク要素の正規表現です。
findImageRegExp	linkRegExpでマッチしたリンク要素に内包される画像要素に対する正規表現です。次のreplaceStringで画像のURLを置換するためにも使います。（省略可）

replaceString	findImageRegExpが入力されていれば画像のURLに対してs/findImageRegExp/replaceString/の置換を実行します。findImageRegExpが入力されていなければ、リンク要素のhref属性に対してs/linkRegExp/replaceString/の置換を実行します。これらの結果がGreased Lightbox上で表示される画像になります。
showFunction	リンク要素をクリックした際に実行する関数です。

さて、この情報だけで早速対応サイトを追加しよう、なんて事は無謀なので少し流れに沿って要約します。パラメータは、次のような流れで使います。

① **includeRegExpにマッチするサイトから**
② **linkRegExpにマッチするリンク要素を抜き出して**
③ **excludeLinkRegExpにマッチするリンク要素を除外して**
④ **その結果からfindImageRegExpにマッチする画像を抜き出して(省略可)**
⑤ **replaceStringを使って置換**
⑥ **結果を画面中央に表示**

うん、残念ながらあまり分かり易くなっていないような気がします。が、項目の事だけ延々書いても仕方ないのでこのまま進めさせてもらいます。実際のサイトの対応内容を見て理解していった方が早いとも思います。

とにかく設定項目がわかったので新しい設定を追加してみましょう。この日のために、未対応のサイトの対応コードをいくつかご用意しました。まずはYahoo!画像検索(http://search.yahoo.co.jp/images)です。Googleはできるのにyahoo!ができないなんて不公平だと思いませんか？　Yahoo!画像検索の対応コードは次のようになります。

```
// yahoo
{
  name          : 'yahoo',
  includeRegExp : /^https?:\/\/images\.search\.yahoo\.co\.jp/i,
  linkRegExp    : /.*\/U=(http.+)\/O=.*/,
  replaceString : '$1',
  showFunction  : function(event) {
                  greasedLightbox.showFrom(event, 'yahoo');
                  return false;
                }
}, // end yahoo
```

エラーなどの影響が出にくいので、新しい設定はsearchDefs変数の上側に追加していった方が安心です。つまり、このコードは73行目のWikipediaに関する設定の上側に挿入してください。この対応コードを追加してからYahoo!画像検索で画像を検索すると…、Greased Lightboxが動作するようになりました(**図4-8**)。

図4-8

次は写真共有サービスのlivedoor PICS(http://pics.livedoor.com/)です。livedoor PICSの対応コードは次の通りです。

```
// livedoor PICS
{
  name          : 'livedoor',
  includeRegExp : /^http:\/\/pics\.livedoor\.com/i,
  linkRegExp    : /\/u\/[^\/]+\/[0-9]+$/i,
```

```
  findImageRegExp : /-(?:SQ|M)\.(jpg)/i,
  replaceString   : '-L.$1',
  showFunction    : function(event) {
                    greasedLightbox.showFrom(event, 'livedoor');
                    return false;
                  }
}, // end livedoor
```

livedoor PICSでは縮小画像のアドレスを少し変更するだけで拡大画像のアドレスになるので、findImageRegExpを使って処理をしています。

このように、画像ファイルのアドレスから拡大画像のアドレスがわかるようになっている場合はfindImageRegExpを使い、そうでなければlinkRegExpを使って頑張って画像ファイルのアドレスを生成します。

他にもこのスクリプトには、いくつかおもしろい機能が搭載されています。

① スクリプトの更新通知
② メッセージの国際化

スクリプトの更新通知は、Greased Lightboxの新しいバージョンが出た場合にお知らせしてくれる機能です。Greasemonkey用のスクリプトは手軽にインストールできる分、最新版への追従が疎かになりがちです。自動的に更新をチェックしてくれればそんな心配も減るので、ユーザには安心ですね。実際の更新通知処理は、1028行目からのtryで始まるブロックで実行されています。1日毎にGM_xmlhttpRequestを使って最新のバージョンをチェックし、更新があったらメッセージを表示するようにしています。

メッセージの国際化はその名の通り、表示される全てのメッセージが他言語対応されています。何だかんだ言っても母国語の方が使いやすいので、これは嬉しい配慮ですね。各言語毎のメッセージは1096行目から始まるgreasedLanguage変数へ代入しているので、新しい言語を追加する場合はここに追記していきます。

Access Bar Pro

機能概要 閲覧中のサイトで設定されているキーボードショートカットを表示する

ライセンス GPL